

京師より贈来する歌一首

四一八四番

山吹の花取り持ちて つれもなく 離れにし妹
を 偲ひつるかも

山吹の花を詠む歌一首 并せて短歌

四一八五番

うつせみは 恋を繁みと 春まけて 思ひ繁けば
引き攀ぢて 折りも折らずも 見むごとに 心和
ぎむと 繁山の 谷辺に生ふる 山吹を やどに
引き植ゑて 朝露に にほへる花を 見むごとに
思ひは止まず 恋し繁しも

四一八六番

山吹を やどに植ゑては 見むごとに 思ひは止
まず 恋こそ増され